

成長のためのコントロール

校長 森 和 久



3月の生活指導の目当ては「成長の仕方を考えよう」です。この1年の目当てはすべてこの「成長」のためにあると言ってもよいと思いま

す。成長のために必要なことは、自分に合った目標を立て、それを絶えず振り返りながら必要な修正を加え、自分に合った成長し続けるサイクルをつくっていくことにあります。

2月の目当て「ふり返って考えよう」に関して、「自分の成果をふり返る際は、人と比べるのではなく、自分がどれだけ向上したかをみるとよい」という主旨の話を朝礼でしました。ふり返りは目標と表裏一体なので、これはどんな目標を立てるべきかということにもつながります。何かで1番を取るとするのは人と比べた目標なので、人がより高い成果を上げれば達成できません。そして人の成果は自分でコントロールできません。あせりや羨ましい気持ちなど、成長にとってマイナスの感情も生じやすくなります。したがって、例えば野球だと、かつてのイチロー氏のように、首位打者を取るという目標よりは、ヒットを200本打つという目標の方が自分でコントロールしやすいということになります。そして、「金メダルを取る」というような相対的な目標を目指すよりは、「〇〇秒を切る」というような絶対的な目標を目指す方が、結果として成果が出やすいのではないかと思います。(このようなことから、学校の評価も、一昔前は相対評価でしたが、今は絶対評価に変わっています。)

自分の達成すべき目標をどこに置くかということは、自分がどんな人生を送りたいか、自分はどんな人になりたいか、自分にはどんな方法が合っているかを考えることでもあります。再び野球の例に戻ると、「首位打者」という相対

的な目標ではなく、絶対的な目標を立てるにしても、「ホームラン数」なのか「犠打数」なのかはもとより、「打率」なのか「安打数」なのかでも、随分そのスタイルは変わってきます。その設定の仕方は個性の反映です。自分には何が合っているのか、自分のチームにおける役割は何かなど、多くのことを考え、試行錯誤した結果できてくるものです。

以前にも触れましたが「個別最適な学び」が重要だと言われています。この言葉が出てきた背景の一つには、AIを用いれば効率的に個々に合った学習ができるという考え方がありました。確かにそれで効率的になる部分は確実にあります。けれども、次に何をすればよいのかAIに任せてしまいう人間を育てることは教育の本旨ではありません。かけ算を効率的に習得することよりも、どうやったらかけ算を効率的に習得できるのかを、自分なりに試行錯誤して考えることができる力の方が重要なのです。

将棋の世界ではAIが圧倒的に強くなりました。しかし、人間同士の対戦に魅力がなくなったかということそうではありません。AIが指し示す手を分析し、それも一つの選択肢として、自分でどうするかを決めていくというその選択の在り方もそれぞれの個性として魅力的です。

AIの指し示す方法も選択肢の一つとして考慮に入れながら、自分に合った目標、自分に合った目標達成のための方法を考えていくと言うことが本当の意味の「個別最適な学び」です。そして、それは自分の学びを自分でコントロールすることだということもできます。もちろん、自分の成長のために、自分に合った目標や方法を見いだすのはそれほど簡単ではありません。失敗や停滞はつきものです。失敗や停滞がつきものであるという認識はとても大事ですので、その気づきを子どもに促しつつ、安全性に留意しながら見守るという姿勢が、とても重要なのではないかと考えています。